

いばら童子

絵 元 井 進

文 宇津木秀甫



京きやうにいる茨木童子いばらきどうじの歌うた

はなざかり	京 <small>きやう</small> のみやこで
花 <small>はな</small> びらが	鴨川 <small>かみがわ</small> に散 <small>ち</small> るよ
ひといっぱい	五條大橋 <small>ごじょうおほし</small>
ひとごみに	まぎれていても
おもうのは	生まれ故郷 <small>なまじき</small> よ
人 <small>ひと</small> びとに	まぎれこみたい
でもわしは	あいてにされん
かくれがの	羅生門 <small>らせいもん</small> で
空 <small>そら</small> をみる	茨木 <small>いばら</small> の方 <small>かた</small>
茨木 <small>いばら</small> の	子供 <small>こども</small> やさかい
わしは人 <small>ひと</small>	人間 <small>にんげん</small> や
けど鬼 <small>おに</small> と	あいてにされん
かえりたい	茨木村 <small>いばらむら</small> へ
ふるさとの	ひとはやさしい
信 <small>たの</small> じるよ	茨木 <small>いばら</small> のひとを

いばらき童子



むかし
むかしの
ことやねん……

この本ほんを読よまれる
みなさんへ

「いばらき童子」は、古くから茨木地方に伝えられてきたお話を、新しい物語ものがたりに書きなおされたものです。

この本には、「はがはえそろおた」や「もどつてしもおた」など、みなさんが聞きなれてない言葉ことばで書かれています。が、これはこの地方で使われてきた特別の言い方かたがたで書かれていますからです。

みなさんが使う場合は、「はがはえそろつた」や「もどつてしまつた」になりますので、このことを頭あたまにおいて読書どくしょを楽しんでください。

ご指導ごしうどいただく
先生方せんせいへ

この絵本は、茨木地方に古くから伝わる伝説をもとに書き下ろされた創作民話せんさくみわたりです。

民話の文体は、その土地の風土や人々の生きざまをそのまま読み手に伝えるために、ふつうは方言を生かした独特の表現で書かれています。したがって、「はがはえそろおた」「もどつてしもおた」のような聞きなれない表現げんげんがされていますが、「はがはえそろつた」「もどつてしまつた」などの方言的な表現とご理解りかいいただきたいと思おもいます。

なお、教材などでご利用ごりよういただきます場合は、指導上しうどじやうじやうご留意ごれいいただきますようお願いごんがひいたします。



いばらきむらの
あるいえで
おとこのあかちゃんか
うまれた。うまれてすぐ
こそこそ、はいだした。
ふりむいて
ははおやににこつと
わろおてみせた。くちには
はがはえそろおてた。
ははおやは、びっくりりして
しんでしもおた。

しばらくすると
こどものあたまに
つのがはえてきた。
ちちおやは
こまったことになったと
おもおた。
びんぼうなくらしを
してるのに
こんなこどもの
せわはやいておれん
どおしよおかと
ひとばんじゅう
かんがえた。

あくるあさ やまへくりひろいにいこお
いうて きたのやまに つれていくと
こどもをほかして ひとりで いばらぎむらへ
もどつてしもおた。
こどもは だんだん やまおくにはいって
たんばの おおえやまについて
おにのなかまにはいった。
それからはいばらぎとおじと
よばれるよおになった。



なかまが
こしらえた
かたなや てっぽおを
きょうとの みやこに
うりにいくと、
みやこのひとたちは
くさい はだかんぽおと
あいてにしてくれん。
いじめられる。





そのうち だいじんの
めいれえで さむらいが
やまぶしのすがたにばけて
おおえやまに やってきた。
どくをまぜたさけを
おにのたいしように のまして
やっつけてしもおた。
のこったものは ばらばらになって
ほうぼうへ でていくことになった。



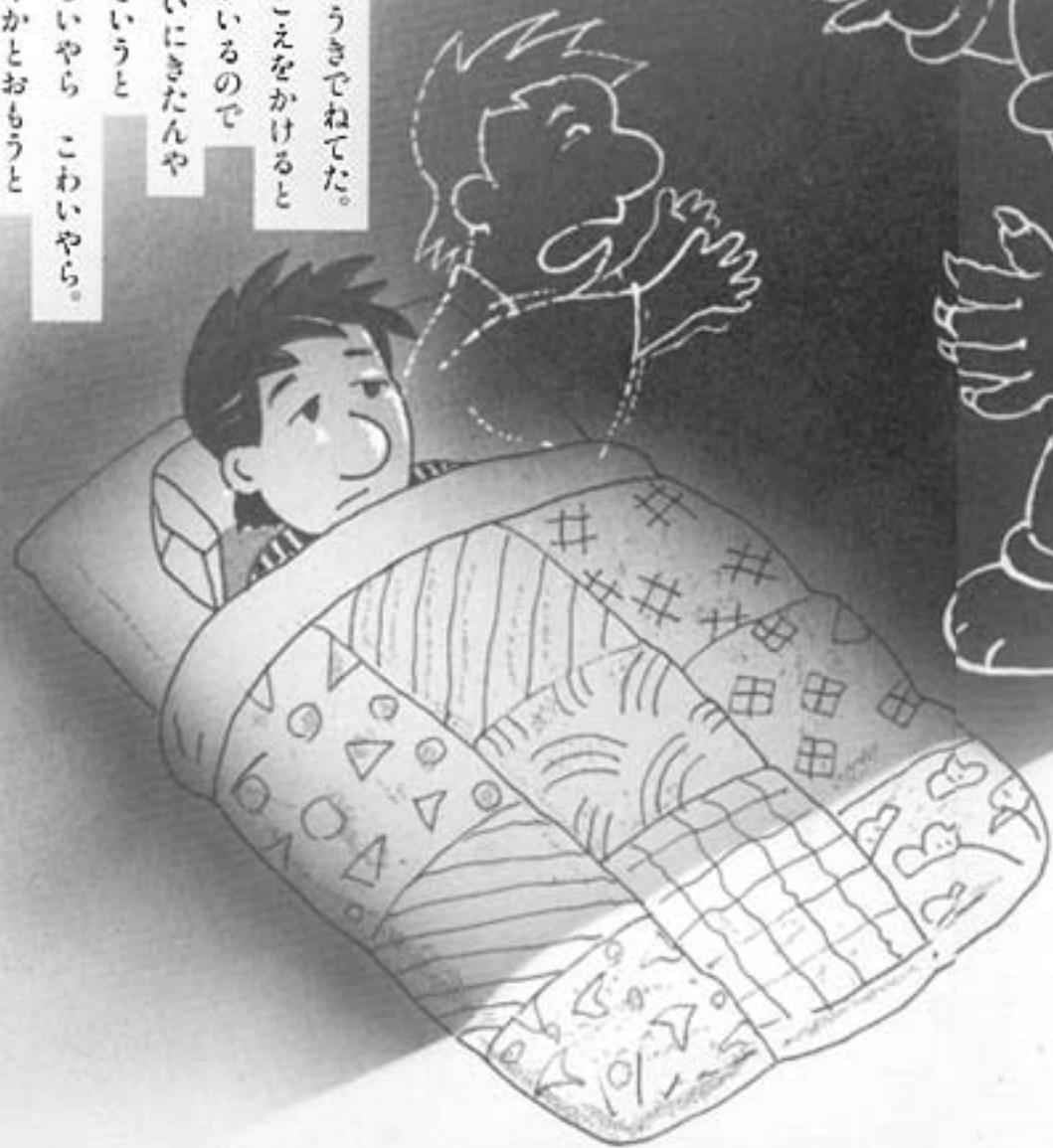
さむいふゆの まよなか。
とおとお いばらきにむかって
はしりだした。
らしよおもんから
いばらきへは いっほんみち。



いばらきどおじは
みやこの いりぐちの
らしよおもんで
ねるよおになった。
みつけた みやこのひとは
おにがであと
さわいで あいてにしてくれん。
いばらきへ いってみたいと
おもうよおになった。



ちちおやは びょうきでねてた。
「げんきかあ」と こえをかけると
ちちおやは おにがいるので
びっくりした。「あいにきたんや
げんきだしてや」というと
ちちおやは うれしいやら こわいやら。
ふたりは だきつくかとおもうと
にらみあうのや。



「まー
ひをとちす」と
ちちおやがいうと
「おやこで
はなしあうのに
ひはいらん」と
どおじがいう。
ふたりは てを
つないで
おどりだしたそおな。





帰^{かえ}ってきた茨木童子^{いばきどうじ}の歌^{うた}

帰^{かえ}ってきたぞ
 まよなかのみやこ
 走^{はし}ってもどった
 お父^{ちち}さあーん

茨木^{いばき}に
 ぬけだして
 茨木^{いばき}や
 元氣^{げんき}かあ

ふしぎやふしぎ
 あまえるどころか
 童子^{どうじ}はちゃんと
 村^{むら}の人^{ひと}らは

捨^すてられたのに
 茨木村^{いばきむら}は
 いつもお前^{まへ}を
 童子^{どうじ}のことを

よおもどった
 よおなつた
 氣^きにしたた
 氣^きにしてた

おおけにありがと
 ときどきもどつて
 みやこで仕事^{しごと}
 だいじにします

むらの人^{ひと}
 きますけど
 みつけます
 茨木^{いばき}を

むらびとがきたさかい
 「らしよおもんのおにと
 いわれてるけど
 ここのこどもだす
 おやじをあんばいおたのみし
 ます」というた。むらびとは
 「しんばいいらん」といふ
 もどつといで」と
 やさしかった。
 「いばらきは ええとこたすな」
 そおいうて いばらきとおじは
 とまどきいばらき入
 もどつて
 くるよおになつたそおな。

(おわり)



発行 1989年(平成1年)11月19日

絵 元井進

文 宇津木秀甫

発行責任者 茨木青年会議所

>まちづくりのため 無料配布<